

令和8年度第1回印西市史編さん委員会議事録（要旨）

- 1 開催日時 令和8年8月6日（木）午前10時00分～午前11時50分
- 2 開催場所 印西市文化ホール 2階大会議室
- 3 出席者 榎委員長、木村委員、伊藤委員、高花委員、石井委員
- 4 欠席者 大友委員
- 5 事務局 鈴木生涯学習部長（委嘱式のみ出席）、飯島文化振興課長
五十嵐木下交流の杜歴史資料センター所長、大関主任学芸員
- 6 傍聴者 0人（定員5名）
- 7 議題（1）令和8年度市史編さん事業について
（2）印西市史刊行計画の変更について
（3）その他

8 配布資料

- ・ 会議次第
- ・ 資料 1：印西市史編さん委員会 委員名簿
- ・ 資料 2：印西市史編さん委員会設置条例
- ・ 資料 3：市史研究誌『印西の歴史』編集要項
- ・ 資料 4：印西市史編さん専門委員設置要綱
- ・ 資料 5：事業組織
- ・ 資料 6：令和8年度市史編さん事業について
- ・ 資料7－1：印西市史編さん事業基本方針
- ・ 資料7－2：刊行計画（現行）
- ・ 資料7－3：刊行計画（案）

事務局側報告資料として「（仮称）生涯学習ビジョン策定基本方針」「空水空 芸術祭」資料を配布

委員委嘱式（教育長代理として鈴木生涯学習部部長より手渡し）

役員選出（結果は別添「資料5：事業組織」参照）

委員長あいさつ

議事録署名委員として、伊藤委員を選出

議事録は、要点筆記で作成し、校正の際には、発言内容に齟齬がないように署名委員に確認をお願いします。

議事（榎委員長が議長として議事進行）

■（１）令和８年度市史編さん事業について

議長：（１）令和８年度市史編さん事業について、事務局より説明をお願いします。

事務局：それでは、議題（１）令和８年度市史編さん事業について説明をさせていただきます。

最初に市史編さん委員会の会議を今年度は２回見込んでございます。

第１回目は本日この場で行われている会議です。

第２回目につきましては、来年の３月頃を予定しております。

次に事業です。

まず刊行事業ということで、市史編さん専門委員会編集会議を２回見込んでおります。

第１回目につきましては、去る令和８年７月３０日に木下交流の杜歴史資料センターで開催され、令和８年度各専門部会活動や刊行計画の変更について議題として取り上げ、承認を得られました。

第２回目につきましては、来年の３月頃を予定しております。

続きまして、各専門部会の動きです。

近世部会は委員１０名で構成されております。

今年度第１回目の会議は去る令和８年５月２４日（日）に印西市立中央公民館で開催され、議題としては資料に記載した内容が取り上げられました（資料６：令和８年度市史編さん事業について・１～２ページ目参照）

詳細ですが、事前に委員から閲覧希望をまとめた資料及び運営委員会協議資料を配布。以降は整理中の目録などを適宜送付し、閲覧撮影希望史料を募り、撮影史料もデータベース化し、情報共有を図るよう進めて参ります。

次に市史刊行計画についてですが、こちらは後程ご説明させていただきます（「（２）印西市史刊行計画の変更について」を参照）。

また、今年度の活動計画として、担当分野を中心に筆耕資料の摘出、原則今年度末までには摘出だけは終了し、順次筆耕依頼していく予定です。

そして、来年度前半ぐらいには外部発注した筆耕が上がってくるので、手元に筆耕資料の原稿があるという状態で、目次構成案を考えていく予定です。

会議の予定については、資料に記載したとおりです（資料６：令和８年度市史編さん事業について・２ページ目参照）。

調査等につきましては、各委員１５日程度、各担当分野に基づく資料調査や市内所在調査など実施予定です。

文書筆耕については、引き続き筆耕史料の選出、筆耕原稿の依頼及び作成を手掛けていく予定です。

続きまして中世部会です。

中世部会は委員5名で構成されております。

今年度第1回目の会議は去る令和8年7月19日（日）に木下交流の杜歴史資料センターで開催され、議題としては資料に記載した内容が取り上げられました（資料6：令和8年度市史編さん事業について・2ページ目参照）

詳細ですが、各委員の進捗状況の報告、資料編に掲載する水域復元図掲載データ関係、口絵写真、構成などについて検討を行いました。

次に市史刊行計画についてですが、こちらは後程ご説明させていただきます（「(2) 印西市史刊行計画の変更について」を参照）。

次に調査につきましては、原稿作成を各委員で進めていただいております、石塔等ほかの調査を各委員15日程度の予定をしております。

また、その他として古文書・位牌などの調査を各委員5日程度の予定を組んでおります。並行して中世水域復元図の修正作業も進めていく予定です。

次に民俗部会です。

民俗部会は委員9名で構成されております。

今年度第1回目の会議は去る令和8年5月30日（日）に印西市立中央公民館で開催され、議題としては資料に記載した内容が取り上げられました（資料6：令和8年度市史編さん事業について・2～3ページ目参照）

詳細ですが、同部会においては去る6月28日（日）に市内の本埜地区より全体聞き取り調査を行う予定でした。

しかしながら、台風の接近により、8月2日（日）に順延という形になりましたが、地元の方々の協力で無事に終了しております。

また、市内の町内会長・自治会長を対象とした民俗関係のアンケートを行うことについて協議も行われました。

次に市史刊行計画についてですが、こちらは後程ご説明させていただきます（「(2) 印西市史刊行計画の変更について」を参照）。

次に調査につきましては、本埜地区の現地調査の実施を各委員10日程度で予定をしております。

次に市史刊行についてですが、令和8年度は「印西の歴史」第16号の刊行について、

これまでと同様の使用での予定しております（資料6：令和8年度市史編さん事業について・3ページ目参照）。

原稿の募集については「広報いんざい」5月号、市ホームページなどで行っております。応募状況ですが、令和7年度市史編さん講座報告ほか5件ほど調整中です。

続きまして、その他でございます。

歴史資料の収集及び整理・保管事業につきまして、資料の整理保管を随時行っております。

その中には、古文書など以外に新聞資料、地域資料等も収集しており、大森図書館、小林図書館の協力等で地域資料の収集を行っております。

次に資料の整理でございますが、保管・未整理文書がございますので、こちらを随時進めております。

整理内容としましては、資料に明記したとおりです（資料6：令和8年度市史編さん事業について・3ページ目参照）。

次に資料の保存でございますが、受け入れた資料につきましては資料の燻蒸を行い、今年度は令和7年度に受け入れたものと今年度受入予定のものを、来年2～3月に実施予定です。

歴史公文書の引き継ぎ収集及び整理・保管については継続して行っており、収集選別は庁内で文書廃棄となる5～6月中に行いました。

今年度におきましては、文書保存箱17箱収集をいたしました。

その他の収集に関しましては、随時打診があった場合、現物を見た上で選別し、収集を行っています。

またこうした資料は整理という形で引継ぎ資料と目録作成、行政資料目録の作成を進めております。

また、寄贈・購入図書資料の受入を随時行い、整理・台帳作成を順次進めております。

次に普及活動事業でございます。

展示事業としまして、常設展示を継続して行っております。

7月時点では749名の来所者に足を運んでいただきました。

また、展示だけではなく、求められた場合は説明も行っており、希望団体の申し込みがあった場合、職員が説明を行っており、現時点で2件の依頼を受け、対応を行っております。

市史編さん講座等です。

市史編さん講座ですが、令和8年10月18日（日）にコスモスパレットⅡを会場に実

施予定です。

講師については、中世部会の委員でもあります井上哲朗委員に「戦国時代の印西地域の城と社会」というテーマで講演していただく予定です。

市史編さん講座ですが、令和8年8月9日と16日の日曜日に2回に分けて開催予定です。

講師については、近世部会の委員でもあります小田真裕委員に「知りたい歴史を調べてみよう！」というテーマで小学生を対象とし講義していただく予定です。

続きまして、保管資料の活用です。

市で所有する資料の閲覧、掲載、貸出等の申し入れがあった場合に随時対応しております。

次に、市史情報の提供でございます。

地域の歴史や資料に関する問い合わせ対応や『広報いんざい』掲載のコラム「タイムスリップ・いんざい」を通じて、市の様々な歴史に関わる事柄を紹介しています。

次に市史刊行物の頒布についてです。

『印西の歴史』第16号を令和8年4月21日より頒布しております。

1部700円で250部の頒布しております。

最後にその他でございます。

関係団体の参加ということで、千葉県史料保存活用連絡協議会に引き続き参加しております。

令和8年度事業については以上です。

ご審議をお願いいたします。

議長：ただいまご説明いただきましたことについて、質問・意見などありますか。

委員：民俗部会の活動の中で、町内会長・自治会長へのアンケートは市内全域に対して行うのか。

事務局：市内全域を対象として行う予定です。

委員：市史刊行物で『印西町史 民俗編』が既刊となっているが、印西市史の民俗編はどのいったスタンスで刊行予定なのか。

事務局：合併後、印旛・本埜地域が印西市に加わったため、そうした地域の情報も盛り込んだ

ものを目指しつつ、民俗部会の各委員からも意見を募って、刊行していきたいと思います。

委員：千葉ニュータウン地区の多々羅田公園では、新住民の方々が開催するお祭りもある。
そうしたイベントにも触れていくのもいいと思う。

事務局：今回行う予定のアンケートによる情報入手に期待したいと思います。

委員：『印西の歴史』の原稿応募は原始古代関係のものがあるようだが、そのほかの状況はどのような感じか。

事務局：応募してきた方もいれば、市より打診し、応じてくれそうな方がいらっしやいます。
原稿の公募については広報紙とホームページ以外にSNSでも周知を図っております。

委員：『印西の歴史』についてだが、印旛地区・本埜地区に関するテーマの寄稿が少ない気がする。

例えば、今後行う予定の民俗調査のアンケートを活用し、各地区に寄稿をお願いするのもいいと思う。

また、同書の掲載原稿は学術的な発表が主になっているものが多いが、そんな中でも既刊の『印西の歴史』には木下地区の幸町の命名に関することが掲載されていたりする。

小学校の授業の中には「地域を知ろう」というテーマもあり、自分たちが住み町の成り立ちやPRポイントを学ぶこともある。

そんな中、地域が新しい千葉ニュータウン地区の小学校では伝統的に残っているテーマの選別に難儀しながらも、都市計画の観点から町の施設について調べたり、中学校の地理的分野ではどのように町が発展してきたかを古い地図を使って調べたりしていた。

そうした授業で、教員が教材として使用でき、子供たちが授業で引用できるようなものが無いと、市の歴史について学ぶ機会をスルーされることになる。

なので『印西の歴史』などがそうしたものに活用できるようなものになればいいと思う。

事務局：当市としても様々な観点から資料を収集・保管し、今後も市民の皆様へ還元できるようにしていきたいと考えます。

また、他にも施設の見学などを通じて学校の授業などでも活用していただけるように展示を工夫するなど検討していきたいと思います。

委員：個人的な意見だが『印西の歴史』は『印西市史』のようなボリュームのある市史刊行物の刊行までの間を埋めるような立ち位置にあると思っている。

そんな同書には、例えば消え去りつつある商店街にどんな店があったとか、地元の情報について、古老に聞き取り調査を行うなどし、記録して紹介していくのも良いので

はないかと考えている。

事務局：古い町並みの情報などについては、今後も調査などを通じてデータを収集し、何らかの形で発信してけるシステム作りを考えていきたいと思います。

また、かつて作成していた『木下交流の杜歴史資料センターだより』で学校の教材などで利用できそうな情報を発信する方法なども検討していきたいと思います。

委員：ネットの「今昔マップ」を出力し、それを見ながら当時の話をしてもらおうというやり方も方法としては有効だと思う。

特に当時存在した道などの情報は、貴重な資料となるはず。

また、茨城県の行方郡玉造町（現・行方市）では小字を網羅した地図を大変な労力を経て作製したと聞いている。

小字は土地の歴史を反映しているので、貴重な資料になると思う。

ある出版社の地名辞典の巻末には小字の一覧表が載っているが、それがどこに当たるのかは載っていない。

市で作成している地図にも一部の小字は載っているものの、その範囲は分からない。

例えば膨大な労力が必要になるが、動態図をベースとして地籍図に掲載されている小字を落とし込むといった作業は、早い段階でやっておかないと将来的には作成も困難になるのではないと思う。

議員：農業委員会に地籍図などがあるのではないか。

議員：あるいは土地法典という形で戦前には出版されていた。

しかしながら、こうした作業には実に膨大な時間と人員が必要になる。

そのうえで言及するが、現在の事務局（木下交流の杜歴史資料センター）は文書館機能・博物館機能・市史編さん事業を一手に担っている。

本来なら、市史編さん事業は一つの独立した部署として稼働し、それに専念する体制でないと市史編さんは成り立たない。

そうした目で見ると、印西市の現在の事務局の体制の在り方は弱いと言わざるを得ない。

印西市は千葉県の中でも財政面では優れているので、それを活かして人員確保を行い、第一線で県の中でも見本となるような体制づくりに取り組んで欲しい。

事務局：印西市の魅力は自然豊かな環境と歴史です。

それを活かし、PRすることで入居者を増やすことが出来るというのが印西市の魅力だと思っています。

その一翼である歴史の活用と、市史編さん事業の推進は重要な位置づけにあると思います。人員体制の改善を図りたいと思います。

議員：白井市では小字の用いた地図をまとめ、販売まで行っている。

議長：それでは、議題（１）令和８年度市史編さん事業について御了承いただくことでよろしいか。

（承諾意思表示あり：【うなずきあり】）

議長：御了承していただき、ありがとうございます。

議題（１）令和８年度市史編さん事業については了承されました。

■議題（２）印西市史刊行計画の変更について

議長：それでは、議題（２）の印西市史刊行計画の変更について、事務局から説明をお願いします。

事務局：それではお手元の資料７－１、７－２、７－３を元に説明をさせていただきます。

まず、資料７－２が令和７年８月２８日に印西市史編さん委員会で承認された現行の計画です。

今回、計画変更の案としてご提示させていただくのは資料７－３です。

同資料の中で、黄色い印がついている部分が今回変更を行う部分になります。

まず、中世の資料編刊行を１年、通史編を３年延期します。

そのため、中世の資料編は令和９年度刊行から令和１０年度刊行へ、通史編は令和１０年度刊行から令和１３年刊行へシフトとなります。

次に、近世の資料編刊行が２年延期となり、通史編が４年延期となります。

そのため、近世の資料編は令和９年度刊行から令和１１年度刊行へ、通史編が令和１０年度刊行から令和１４年度刊行という案を作成いたしました。

さらに中世・近世の刊行年度の延期により、原始古代の資料編の刊行年度を大幅に延長し、令和１１年度刊行を令和２０年度刊行へシフトし、通史編に関しては令和１２年度刊行から令和２３年度刊行に延期しております。

今回の大幅な計画変更については、現在活動中の中世・近世部会で資料の調査が進む中、新たな資料の追加が必要になったこと、また、近世部外においては新たな担当分野を担う委員が６名追加となり、調査に加わっていただき、調査内容を充実化させたことにより、計画全体のバランスを見直し、今回ご提示した計画案となりました。

民俗編については現行と変更はございません。

なお、今回の計画の変更の案については各部会および編集会議においても承認をいただいております。

印西市史刊行計画の変更については以上です。

ご審議をお願いいたします。

議長：それでは、御質問等がございましたらお願いいたします。

委員：原始古代については、文化振興課の埋蔵文化財に詳しい学芸員に助力を請えないのか。

事務局：原始古代に詳しい学芸員は確かにいますが、現時点では以前から活動している部会で中世・近世編の刊行に注力するべきであると判断し、計画の変更を提案させていただきました。

委員：先程、事務局の補足説明にあったように、人員増による体制強化が図れたら、刊行計画の前倒し変更もあり得ると思うので、ぜひそちらの見直しも検討してもらいたい。

委員：個人的に今回の見直しは現実的だと思う。先程、他の委員も言及していたが、現在、事務局は文書館機能・博物館機能・市史編さん事業の三分野を一手に担っている。

その中でできる範囲内で計画を進めていくという方法が最適ではないか。

欲を言えばだが、八千代市が古文書の公開目録を作成している。

それを見据えて近世編の資料編などの刊行を進めて、公開可能な資料の選別・目録化と公開を目指していただきたい。

事務局：ご指摘にあった体制強化と中世・近世編の刊行、公開可能な目録の作成もインターネットを活用した方法も含めて検討していきたい。

議長：それでは、議題（２）印西市史刊行計画の変更について御了承いただくことでよろしいか。

（承諾意思表示あり：【うなずきあり】）

議長：御了承していただき、ありがとうございます。

議題（２）印西市史刊行計画の変更については了承されました。

■議題（３）その他について

議長：それでは、議題の（３）その他についてですが、事務局からありますか。

事務局：特にございません

議長：では、委員の皆様から何かございますか。

委員：他の委員の意見も聞きたいが、今回、事務局から会議資料がデータで送信されてきた。

その際、市で取り込んでいるペーパーレス化の一環だという説明だったが、個人的には紙で送付いただいた方がメモを記入しやすいし、それを持参するというスタイルがありがたい。

事務局：確かに今回はそうした市の取り組みもあって、電子データを送付させていただきました。

しかしながら、従来どおりのペーパーでの提供もできないわけではありません。

委員：私も紙での資料提供がありがたい。

自分としては一度出力し、読み込むスタイルなので紙ベースで提供いただいた方がありがたい。

事務局：了解しました。では、次回から従来どおり紙ベースでの提供を継続することにいたします。

委員：市全体でペーパーレス化に取り組んでいるとあったが、通史編や資料編などの『印西市史』や市史研究誌『印西の歴史』などの市史刊行物については、電子データ化により公開というスタイルは必要だと思うが、従来どおりの紙媒体での刊行を維持していただきたい。

こうした刊行物は後世のために可能な限り遺すものである。

仮に電子データ化のみになった場合、その媒体が後世でも利用可能という保証がない以上、紙媒体による保存は重要である。

日本で資料として最も長く保存が可能であると言われているのが紙の文書や墨書と言われている。

また、他の自治体でも紙媒体の保存から電子媒体での保存にシフトする動きを耳にするが、最終的には紙媒体での保存が選択されているケースを耳にする。

印西市は見識のある方法を選択するようにしていただきたい。

事務局：紙媒体と電子媒体による刊行物はそれぞれニーズが異なるという観点は把握しております。

今後も検討していきたいと思います。

議長：他に何かございますでしょうか。

(特になし)

議長：それでは、すべての議案審議が全て終了しましたので、ここで議長の任を解かせていただきます。

事務局：2件ご報告がございます。

1つ目は「(仮称) 印西市生涯学習ビジョン策定基本方針」です。

この計画には生涯学習全般について市のビジョンを定めるものです。

その中には文化振興や芸術、図書館の今後の在り方も含まれております。

今後、総合教育会議なども開催され、アンケートや意見公募を進めていく予定です。

委員の皆様におかれましても、今後、ご指導・ご意見をいただく場合があると思います。

その際は、ぜひよろしくお願いしたいと思います。

2つ目は「空・水・空 芸術祭」です。

芸術祭は、地域固有の景観や資源と現代アートを結びつけることで、地域の新たな魅力を発見し、従来とは異なる視点から発信する取り組みとなります。

開催地として成田市、栄町と連携し、令和9年3月から5月にかけて開催予定でございます。

印西市のメイン会場は印旛沼エリアと宗像エリア（旧宗像小学校・宗像郵便局・印旛歴史民俗資料館）になります。

担当課としては経済振興課が主担当で、インバウンドの観光もターゲットにして展開していく予定です。

スケジュールなどは資料をご一読いただきたいと思います。

事務局：それでは「令和8年度第1回印西市史編さん委員会」会議を閉会とさせていただきます。

本日はありがとうございました。

令和8年度第1回市史編さん委員会の議事録は事実と相違いないので、これを承認する。

令和8年8月13日

印西市史編さん委員会
議事録署名委員 伊藤 哲之